

授業科目名	紛争解決の心理学 Psychology for Conflict Resolution
授業科目群	基礎法学・隣接科目
標準学年	1・2・3年次
必修・選択の区別	選択
開講学期	前期(隔年開講)
開講曜日・時限	集中
単位数	2単位
担当教員名	縄田健悟 (Nawata Kengo)
授業の目的	社会的紛争場面における心理・行動過程の知識を獲得し、紛争解決に活かす方法を受講生自らが考える機械を提供する。
履修条件	特に指定しない
到達目標	カリキュラムマップ、到達目標科目対応表及び学修ロードマップを参照のこと。
授業の概要	<p>この授業では、心理学、特に社会心理学的な視点から、社会的紛争の発生・激化・解決における人間の心理・行動に関する講義を行う。 受講生どうしや教員とのディスカッションの時間も設け、単に学術的な知見の教授だけではなく、それを法律家としてどう活かすかという視点からも考える時間を設ける。 また、適宜、具体的なケースをもとにディスカッションを行ったり、紛争解決の課題を用いたロールプレイといった実習も取り入れる予定である。</p> <p>This course examines psychology of conflict resolution.</p>
授業計画	第1回.イントロダクション:紛争の心理学 第2回.公正 第3回.攻撃行動 第4回.紛争における感情 第5回.紛争における心理バイアス 第6回.道徳と善悪 第7回.偏見が歪める判断 第8回.交渉 第9回.寛容と謝罪 第10回.社会的分断と共感 第11回.暴力激化装置としての集団 第12回.集団間紛争の激化 第13回.集団間紛争の解消 第14回.学校や職場での紛争解決 第15回.地域紛争
授業の進め方	配布資料を元に講義を行う。適宜、具体的なケースをもとにディスカッションを行ったり、紛争解決の課題を用いたロールプレイといった実習を行うこともある。
教科書及び参考図書等	指定しない

試験・成績評価等	授業への出席及び授業中の発言・態度・質疑応答(50%)、最終レポート(50%)により評価を行う。 紛争解決のあり方を心理学の知見を踏まえて深く理解するために、多角的な観点から評価を行うため、期末試験は行わず、上記の基準で成績評価を行う。
事前学習	適宜指示する
課題レポート等	適宜指示する
オフィスアワー	随時
その他	